

平成28年11月14日

松阪市議会議長
西村友志様

松阪市議会議員
久松倫生

研修報告書

11月8日（火）、横浜を会場に松阪市の図書館の指定管理者となっている図書館流通センターなどが開いている「図書館総合展」の一環として、集中講義「図書館政策」～公立図書館の機能とその発揮～へ、政務活動費を活用して参加いたしましたので報告いたします。

参加の視点として、この3年間、山中市長の辞職にもつながる大きな課題となった図書館問題ですが、松阪図書館の改修を含め最終段階となってきました。あらためて公立図書館のあり方、これからの図書館の方向性が問われてくることとなります。そこで、今後の取り組みを考える上で、いい機会として受けとめ参加しました。

別紙のような13時～17時の間の講義でした。

宮脇淳氏の講義は、「行政管理から自治体経営」が強調されました。率直な感想は大学教授の一般論という感じでした。

図書総合研究所の佐藤氏の講義は、つがる図書館の実践例を紹介して、成功例からの講義でしたが、新しい解明という感じは受けませんでした。

愛知県西尾市長の公共施設再配置のPFIの実践論が、賛成するかどうかはおいても参考例になりました。合併後の公共施設の再配置をPFI手法ですすめるというもので、行政主導ながら市民合意をどうつくっていったかという市長自らの説明でした。これが成功するかどうか、他の自治体へひろがらないのはなぜか、問題意識を持ちました。一度、総務企画委員会などで視察する価値はあると思います。

最も参考になったのは、東京都墨田区議会の「図書館条例」の修正の報告は、「図書館の自由の宣言」といった図書館の基本をふまえてあり方を明記させた取り組みでした。超党派の取り組みで、どこに一致点があるかを確かめることにもつながります。議会改革の一環としても優れた実践だと受け止めました。

開会とナビゲーションを南学氏が行いましたが、図書館など施設利用者は住民の1～2割にしかならないが他の多数は税金だけ納めて受益がないといった論議をされていました。だから、公平性、校正性が問われるということなのでしょうか、考え方に疑問を持ちました。

松阪とのかかわりでは、総合展の会場で、松阪図書館の改修、運営などにかかわっていただいたTRCの野田幸子さんと出会ってお話できたことはよかったです。さらに「アデアック」というシステムで武四郎記念館の樺太の絵図や松坂城下絵図が公開資料になっていることを初めて知りました。

これから、改修は最終段階ですが、その後の運営や指定管理者との関係などち密さが求められると実感しました。

視野のひろがる、今後に生かせる研修だったと思います。